

第5回 国際大会（フィリピン大学セブ島）を終えて

大会実行委員長 久保裕史

2017年3月24日金曜日、フィリピン大学（UP）セブ・キャンパスにおきまして、第5回国際大会が、成功裡に終了しました。開催に際し、ご支援を賜りましたUPおよび協賛先（FIST、キューピー(株)、ヒューマンシステム社）、会員の皆様に、誌面をお借りして、心より厚くお礼申し上げます。

以下、本大会の内容や、成果、所感等につき、報告します。



メイン会場の様子

1. 午前の部

大会のオープニングは、UPセブの学生合唱団による、フィリピンと日本、両国の厳かな国歌斉唱と数曲の賛美歌です。彼らのお陰で、清々しい気持ちで、スタートを切ることができました。



UPセブ学生合唱団

初めに、UP開催にご尽力頂いた副学長のZamora先生から開会のご挨拶が述べられました。次いで、小原会長



Zamora 副学長 小原会長 Corro 代表

から、本大会の趣旨（主題「グローバル市場の熾烈な競争下におけるP2Mの役割」、副題「イノベーションでアジアを先導する新しいアプローチ」）が述べられ、共催先のUPへ謝意が表されました。UPセブ代表のCorro先生からは、歓迎のご挨拶を頂きました。

午前は、休憩を挟んで計4件の基調講演が行われました。初めに、吉田邦夫名誉会長が、「産業環境の劇的変化とP2Mの進化」を講演されました。現在の第4次産業革命、AIの台頭、貧富の差拡大などから、今後求められるP2M進化の方向性を、分かり易く示されました。続くZamora副学長は、UPにおけるICT活用学習システムを事例として採り上げ、「分断的プロジェクト管理」の要諦を講演しました。



基調講演者（Zamora 副学長、吉田名誉会長、山本副会長、久保）、実行委員（Vicente 教授）、司会（McFarland 教授）

山本副会長は、「製品とサービスの経済価値を高めるためのプログラムマネジメント」を講演しました。経済価値がプログラム段階で創造されることや、3S モデルと最新 ICT 技術、共創との関わりを、分かり易く解説されました。久保は、「イノベーションは戦略にしたがう」と題して、スマート社会実現に必要とされる戦略アプローチとイノベーションモデルの最適な組み合わせ、及びそのマネジメントを提示しました。

2. 午後の部

午後は 2 トラックに分かれて、P2M と関連する分野の研究成果が、計 16 件（フィリピン 3 件、日本 13 件）発表され、活発な議論が行われました。

第 1 会場では、沖浦座長の下、「価値デザインレビューと統合スキルの探求」、「ベトナムのスマート社会戦略」、「魔の川・死の谷を乗り越える R&D P2M」、「ODA プログラムの価値創造構造とプロファイリング」、「人口増加と雇用創出」、「地域課題解決開発のための P2M 理論」、「創造的環境・エネルギー化学工学のため



第 1 会場の沖浦座長と講演者の皆様



第 2 会場の和田座長と講演者の皆様

の P2M 価値創出プロセス」、「応用力を身につけるための ICE ルーブリック講義」の研究成果が発表されました。

また、第 2 会場では、和田座長の下、「R&D PM のための修正磁気モデルの定量評価の実証研究」、「富の平等的分配」、「P2M 学生フォーミュラ・プログラム」、「研究開発におけるブーストゲート」、「小規模水力発電所を活用した地域開発モデルの分析」、



終了後、講演者とスタッフの皆さんと壇上で



バンケット会場での UP セブ学生合唱団の歓待

「ビジネスシステムへのアジャイルプログラムマネジメント導入」、「プロジェクトチームビルディングにおける文化的意義」、「世界インフレ率の理解」の研究成果が発表されました。

両会場とも、各発表に対して熱心な質疑・討論が行われました。今後のさらなる研究の深化と、知識共有化による新たな展開が期待され、意義深いものがあったと思います。

研究発表終了後、大学近くのパークレーン国際ホテルに移動して、バンケットが開催されました。ここでも、フィリピン料理や学生合唱団によるバリエーション豊かな熱唱など、UPセブから厚いおもてなしを受けました。バンケットの終盤は、参加者と学生たちが入り混じって、熱気に満ちた交流のひとつときを楽しみました

4. 所感

本大会は、P2Mの先端研究の紹介と啓発の場として、貴重な機会であったと思います。成長性、人口、年齢、インフラなど、様々な面において好対照の両国ですが、互いをよく知り、P2Mの知識体系を広め普及させていくことが、両国の発展に繋がることを確信した次第です。

本学会の国際大会も、これで5回目となり、ようやく軌道に乗ってきたように思います。今後さらにP2Mを普及発展させ、アジアと日本の発展に貢献していきたいとの思いを強くしました。

また、とくに印象深かったのは、UPセブ教職員や学生たちによる献身的な運営と歓待ぶりです。本大会が、若い彼らにとっても有意義な場であつたらうことを願っています。



マクタン島シャングリラホテルより

付記

大会翌日、希望者を募って市内を視察しました。その写真をご紹介します。

セブ島には、マゼランに由来する記念碑や建築物が数多く残されています。ラブラブは、マゼランの命を奪った、現地の英雄。マゼランの記念碑と同じマクタン島の公園にその像があります。



ラブラブ像



マゼランの記念碑



サントニーニョ教会

サントニーニョ教会は、フィリピン最古のキリスト教教会。フィリピン・カソリックの「聖地」です。サン・ペドロ要塞は、フィリピン最古の要塞。スペインの占領時代に建築物です。



サン・ペドロ要塞

帰国前夜は、華麗でちょっとおかしいミンダナオ舞踊見物とバイキング。料理も踊りも、大いに楽しめました。



ミンダナオ舞踊団と記念写真

個人的には、バスガイドさんの説明が、現地の実状を知るうえで、役立ちました。興味深かったのは、「豚の貯金箱」と「開かずの信号」。職にあぶれると、道端で豚を放し飼いします。3ヶ月で4千円、半年で2万円「貯まる」そうです。セブの激しい渋滞は、信号がその元凶。マクタンに2つしかない信号は、殆どお休み中です。フィリピンの生活水準とインフラが分かるエピソードでした。それにしても、マクタン沖の珊瑚礁は、絶景です。

以上